

1 令和8年度予算編成にあたっての考え方

教育大綱が掲げる基本方針「心を磨き可能性を引き出す彦根教育」を実現するため、学校教育、家庭教育、社会教育がそれぞれの役割を最大限に發揮するとともに、相互に連携・協働しながら、地域全体の教育力の向上と活性化を図ることをめざす。

教育委員会・学校と家庭・地域等が、子どもを真ん中に据えて、激しい変化が止まることがない時代を生きる資質・能力を育み、持続可能な社会の創り手を育て、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図るという目標を共有し、取組を進めていかなければならない。

そのため、令和8年度においては、次の4つの基本目標の実現に向け、各種教育行政施策を推進する。

2 実現を目指す4つの基本目標

(1) 新しい価値を生み出す学習者主体の学びをつくる

子ども（学び手）の実態に応じて、その主体性を尊重し、意欲や知的好奇心を十分に引き出しながら、教師は学びを支援する伴走者として指導性を発揮する、学習者主体の学びを進める。その際、学校段階間・学校種間および学校と社会との連携・接続を図り、学んだことが役立つことを実感したり、多様な人と協働して目標を実現する経験を積んだりすることができるよう工夫し、主体性やコミュニケーション能力、自己有用感や責任感、問題発見・解決能力等を育てる教育を進める。

(2) 誰一人取り残されない共生社会を共につくる

障害や不登校、日本語能力、複合的な困難等の多様なニーズを有する子どもたちに応じた支援を充実するため、学習到達度・ペース・適性・興味関心・生活経験の差に対応する、個別最適な学びの機会を確保するとともに、すべての子どもたちがそれぞれの多様性を認め合い、互いに高め合う協働的な学びの機会も確保することで、一人ひとりの能力・可能性を最大限に引き出す教育を進める。一人の幸せがみんなの幸せにつながる体験を積み重ね、多様性を尊重し共に生きる共生社会を実現するための資質・能力を育てる。

(3) 地域の恵みを活かし、生涯にわたって学ぶ機会をつくる

豊かな自然、長い歴史、多様な文化や大学・企業・民間団体等の地域人材など、彦根の恵みを活かしながら、市民のニーズに対応した、生涯にわたって学ぶ機会をつくる。その際、学びの場である公民館・図書館・彦根城博物館等の社会教育施設の効果的な活用を図るとともに、学校を核として、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの成長を支える活動の充実に努める。このことにより、人と人とのつながりを広げ、生きがいを感じられ、新たな学びに向かう好循環を生みだし、家庭や地域の教育力の向上と地域の活性化を図るよう取組む。

(4) 学習者中心の学びを実現する環境を整備する

ICT環境の整備を計画的に進め、校務のデジタル化等の学校DXの推進とICT活用の日常化を図る。併せて、指導・運営体制の充実、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に努め、学校における働き方改革の更なる加速化を図る。学校施設および社会教育施設について、安全・安心を確保しつつ新しい時代に求められる教育活動を充実させるため、効率的な改修を進めるとともに、学校規模・学校配置の適正化、（仮称）図書館中部館の整備に取り組む。また、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、家庭、地域、関係機関との連携・協働による学校安全を推進する。